

わくわくグリーンツーリズム通信

vol.04
2023.03.08

2022年11月リニューアルオープンした川越市グリーンツーリズム拠点施設より、五感が喜ぶ“わくわく情報”を発信します。

採れたてネギで バーベキュー！

グリーンツーリズム拠点施設の体験農園では、年間を通じて野菜を収穫できます。自分で収穫した野菜をBBQで食べる美味しさは格別です。体験中の親子に密着取材させていただきました。



お子さん(6歳)がネギを選んで収穫



太くて立派なネギが採れました！



泥を落とし、外側を1枚剥きます
(ゴミはコンポストで堆肥にします)



包丁で食べやすい大きさにカット



炭火で熱した網に並べていきます。
慎重に、落とさないように…



香ばしい匂いが漂ってきました！ネギは皮が真っ黒になるまで焼くのがコツ！

お申し込み・お問い合わせは？
電話(左下)にてお気軽に♪



本日のお茶



子どもも大人も真剣！

参加者からは「楽しかった！」「職人さんに直接ご指導いただき、充実した時間となった」「学校では調理実習がなく、伝統菓子づくりは貴重な体験」「季節によって変わる生菓子を見てみたくなかった。今までと違った見方ができると思う」などの感想を寄せていただきました。

参加者からは「楽し



オリジナル作品開発中



竹串の先で食紅を着色



講師による説明



職人に習う 和菓子作り体験

2月26日、調理室にて和菓子作り体験を実施しました。

和菓子は日本の歴史や季節感から生まれた伝統文化です。川越の有名店「紋蔵庵」の職人(工場長)に作り方を教わる貴重な機会となりました。市内・市外の7歳〜70代の男女17名がそれぞれ真剣な眼差しで細かな作業に没頭し、上生菓子を3〜4個ずつ完成させました。中にはオリジナルデザインに挑戦する方も。河越茶(小野文製茶)を一服召し上がりつつ、試食をしていただきました。

アクセス

川越は都心から電車で約30分
詳細はホームページをご覧ください



←蔵inガルテン川越グリーンツーリズム推進協議会HP

<https://kawagoe-gt.com/>

川越市グリーンツーリズム拠点施設HP→

<https://kawagoe-gt.jp/>



発行者:川越市グリーンツーリズム拠点施設
住所:川越市大字伊佐沼 887 (祝日以外の月曜休館)
電話:049-226-6551 (休館日を除く8:30〜21:00)

バックナンバーはこちら→
<https://www.city.kawagoe.saitama.jp/kurashi/nogyo/GT.html>



「わくわくグリーンツーリズム通信」
のご感想をお聞かせください→
<https://forms.gle/ACxbSe3na6xpVejCA>





春です！花を咲かせてみませんか？

花と緑に親しむことは「ストレス軽減」「認知機能の改善」などの効果が期待できます。※農林水産省「花きの現状について」より

川越は花の生産も盛んです！花苗生産者「さとう園芸」の佐藤さんにお話を伺いました。

▶「さとう園芸」の一年間

花は大きく2シーズン「春夏もの」「秋冬もの」に分けられます。取材時(2月)はパンジー・ビオラ・アリッサム・ラナンキュラスなどが咲いていました。真夏は生産できないため、「秋スタート→夏前終了」のサイクルで経営しています。年間を通じて常に出荷できるように、品種によって種まき時期を少しずつずらしています。4～5月GW前後と、10月～年末ぎりぎりまでが出荷のピークで多忙となるそうです。

▶花が消費者のもとに届くまで

種をまき、芽が出た「赤ちゃん苗」を、容器(ポット)に植え付けるところから始まります。概ね2～3か月で花として出荷できる状態に育ちます。育った花は主に卸売市場(都内の大田花き市場・砧花き園芸市場など)のトラックに集荷されます。

市場では、花屋やホームセンターのバイヤーに買われ、やがて店頭に並びます。

また、佐藤さんがご自身で農産物直売所に持ち込んで販売する花もあります。



ビオラ



「さとう園芸」佐藤さん夫妻

▶ご夫妻それぞれの就農のきっかけ

2003年、ご主人がそれまで勤めていたホームセンターを退職し、花農家として独立したのが「さとう園芸」の始まりです。退職直前は約6年間、園芸担当でした。花の販売や管理のサイクルについて熟知したところで、「新しい分野で自分の知識を活かしたい」と就農にチャレンジ。

半年間、県内の花農家で働きながらノウハウを学びました。

一方、奥様は花の販売をしていました。販売しているうちに「生産現場を見てみたい」と、さとう園芸を訪問したのが、お二人の出会いのきっかけだったそうです。

▶大雪で潰れたハウス

今年で20周年の農園経営ですが、2014年2月の大雪では、メインのハウスが潰れる被害に遭いました。ハウス再建の業者が決まらず、解体もできないまま時間が過ぎるばかり。しかしその年の9月、偶然に出会ったハウス関連の専門知識を持つ人の尽力により、翌年3月に再建することができました。

ハウスは潰れましたが、落ちた屋根は幸いにも花のすぐ上で止まり、花だけは無事でした。ただ、花の管理ができる状態ではありませんでした。

た。この時も、状況を知った取引先のバイヤーが、他の生産者に交渉し、無事だった花を全て買い取る手配をしてくれました。

被害の中、残されたのは小さなハウス2棟。「とにかく、できることをやるしかない」と生産を続けたそうです。「育てた花を少しでも買っていただきたい」と、この時期、直売所への持ち込みも始めました。

「本当にたくさんの人に助けってもらった」と当時を振り返っていらっしゃいました。



花の香りに満ちたハウス内、色とりどりの一面の花に、心を奪われます。



▶良品を「嫁に出す」ために

農園経営のこだわりは「とにかく良品を生産することに尽きる」とご主人。「手間をかけ、丁寧に育てれば花も応えてくれる」そうです。水やりもご主人が自らホースで行う「手かん水」です。「プールベンチ」(水をためて鉢下から自動で吸わせる方法)も一般的にはありますが、佐藤さんは使っていません。手かん水は大変な労働ですが、天気や品種によって微調整ができ、美しく育て「嫁」に出された花が、お客様の元でしっかりと根を張る良品となるそうです。奥様も

「水やりだけは絶対にやらせてもらえない」そう、ご主人の腕の良さが伝わってきました。とはいえ、自然相手のため天候に左右されるなど「思い通りにいかないのが当たり前」で、どんなに気を配っていても「お前たちどうした…」と嘆きたくなるような事態が発生すること。

花をわが子のように慈しみ育てていらっしゃる佐藤さんご夫妻。「コロナ禍でも多くの人に花で元気になってもらいたい」と話してくださいました。

3/10(金)「春のコンテナガーデニング(寄せ植え)講習会」を開催します。詳細は川越市HP→

